

---

# 時過ぎて不変

冬桜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

時過ぎて不変

### 【Nコード】

N4466L

### 【作者名】

冬桜

### 【あらすじ】

昔のように今も平凡極まりなく

コンコン。

扉を叩く音が、集中していた神経を緩める。

「どうぞー」

勉強していた手と脳を止めて、軽い返事とともに扉へと視線を向ける。

「よお、サボリ」

そう言つて、姉が扉を開けて入ってきた。ずかずかと入り込みこちらの机を覗き込む。

「見ての通り勉強中です。からかえなくて残念だな」

さっきまで遊んでいたことを棚に上げて言い返す。今勉強していれば、勉強していたことになるのだ。

「いいよ、いいよ。 からかうネタなんざ探せばいくらで出てくる  
たとえばこの辺とか、そんな物騒な事を言いながら家探しを始め  
たので急いで止める。」

「だあぁー！。 余計なことしないでいいからっ。 一体何の用！  
？」

「おもしろくないやつだな。 もう少し、前座を楽しもうって気はないのか」

「いやない。 例え明日で世界が終わるとしてもない」

ま、いいけどね、そんな事をいいながら、こちらに向き直る。

「ちよつと、CD貸してくんない？勉強中に聞くやつ」

「ああ、適当に持って行って」

なんだそんな事かと思ひながら、浅くため息をつく。姉はCDの入っている棚を適当に物色して、

「じゃ、これ借りてくわ。 じゃね」

手を振りながら扉の向こうに消えていった。

ほんとに何をしにきたのやら。CDぐらい自前で何十枚も持って

るだろうに。

もともとじっとしていることが苦手な姉ではあった。特に勉強とかなになると、すぐに手が止まる。そして、すぐに遊びだす。いつまでも落ち着きのない姉だ。

ということとは、今のも勉強がだるくなって遊びにきたということか。人のちよっかいを出すことには労力を惜しまない姉なので、十中八九そうなのだろう。適当な口実を作って人の勉強を邪魔しに來たってことか。実際には勉強していなくても、結果はあまり変わらない気がするが。

いつまでも変わらない姉に一人苦笑する。

「さ、勉強しますか」

シャーペンを持って勉強体制に入る。

いうほど長くない時間の後に息抜きをする。姉も弟も似た者通しだということには気付かない振りをした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4466/>

---

時過ぎて不変

2011年1月27日08時36分発行